

§ 2 大航海時代

1 ヨーロッパ勢力の海外進出

1 大航海時代

東方貿易の発達

- ・ 香辛料などアジアの物産に対する需要が増大。 オスマン帝国が貿易の障壁。
- ・ ムスリム商人やイタリア商人の中継を経ずに入手すること。 胡椒は同じ重さの金・銀に匹敵するほど高価だった。

中央集権化の進行...ポルトガル・スペインの王室が新しい航路の開拓を奨励。  
 科学・技術の進歩...羅針盤の改良やイタリア人トスカネリの地球体説など。  
 東方世界への関心...十字軍の遠征以来、東方世界への関心が高まる。 マルコ=ポーロの『東方見聞録(『世界の記述』)』の影響。

2 新航路・新大陸の発見

1 インド航路の発見...アフリカ南端を迂回するインド航路は、ポルトガルによって開拓された。

ポルトガルのエンリケ航海王子が奨励。

バルトロメウ=ディアス...1488年、アフリカ大陸南端の喜望峰に到達。

ヴァスコ=ダ=ガマ...1498年、喜望峰をまわってインド西岸のカリカットに到達。

2 アメリカ大陸から太平洋へ

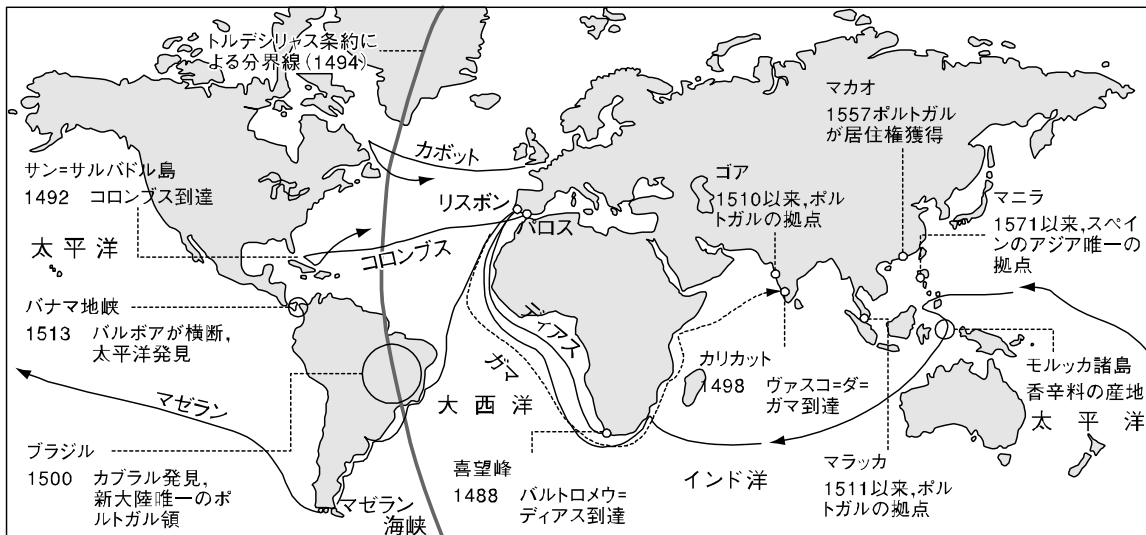
コロンブス...ジェノヴァ出身。天文学者トスカネリらの地球体説をよりどころに大西洋を横断。 1492年スペインのイサベル女王の援助でサンサルバドル島に到達。

カボット...イタリア人。1497~98年ヘンリ7世の援助でニューファンドランド探検。

アメリゴ=ヴェスプッチ...フィレンツェ出身。ポルトガルの援助で新大陸を探検。この大陸はコロンブスが信じていたインドではなく、未知の大陸であると発表。

バルボア...スペイン人。1513年、パナマ地峡を横断して太平洋を発見。

3 世界周航...世界周航の成功の結果、大地が球形であることが実証され、それまで教会が主張していた世界観は崩れ去った。



新航路と新大陸の発見

マゼラン(マガリヤニス)...ポルトガル人。1519年、スペイン王カルロス1世の援助で西航。南アメリカ南端の海峡(マゼラン海峡)を発見。マゼランの死後、1522年、部下が世界一周を完成。

ドレーク...イギリス人。16世紀後半に、地球を西周り世界周航。

### 3 商業・植民活動の展開

1 植民活動...ポルトガル・スペインの活動が中心。

(1) 植民地分界線(教皇子午線)...ポルトガルとスペインの植民地争奪を調整するため、教皇アレクサンデル6世が1493年に設定した境界線。(1494年:トルデシリヤス条約, 1529年:サラゴサ条約)

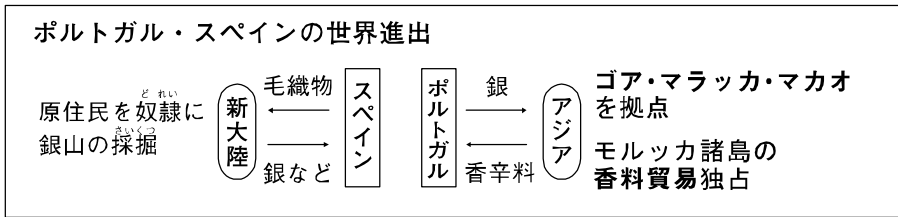
- ・ポルトガルは主にインド・アフリカに進出。
- ・スペインは主にアメリカ大陸に進出。

(2) ポルトガルの活動

インドにゴアを建設(1510年) ヨーロッパのアジアにおける初の植民地。セイロン島・マラッカ・モルッカ諸島を占領。広州に達し中国と貿易。さらに、種子島に漂着し日本と貿易。マカオに対中国貿易の拠点を建設。1557年に居住を許可された。アメリカ大陸では、ブラジルのみが進出。

(3) スペインの活動

アジア...フィリピンを占領(1571年)。マニラを根拠地に貿易を行う。アメリカ大陸  
 ・コルテスがメキシコのアステカ王国を征服(1521年)。  
 ・ピサロがペルーのインカ帝国を征服(1533年)。インディオ(原住民)を奴隷として農場などで酷使する。



2 ヨーロッパの変動

(1) ポルトガル・スペインの繁栄...16世紀は、ポルトガル・スペインの全盛時代。

- ・ポルトガル...アジアから香辛料貿易で利益を得る。
- ・スペイン...アメリカ大陸文明を破壊し、大量の銀を獲得。

(2) 商業革命...東方貿易の北イタリア、金融業の南ドイツ都市(アウグスブルクなど)は衰退。商業の中心は大西洋岸の諸国へ移っていった。

(3) 価格革命...アメリカ大陸からの大量の銀の移入により、物価が急上昇をもたらした。この結果、商工業活動が活発になった。

(4) 毛織物業の繁栄...アメリカ大陸への輸出で市場が拡大。フランドルやイギリスで発展。のちの資本主義経済発展の基礎を形成。

(5) カトリックの海外布教...イエズス会士などが海外植民地で布教を行う。